

令和8年度 学校評価自己評価表 海田町立海田南小学校

学校教育目標 「考え 実践する 海田南っ子」

評価計画			評価基準				自己評価					
中期経営目標	評価項目	評価指標	A	B	C	D	中間値			最終		
			目標達成	ほぼ達成	もう少し	できていない	中間値	評価	結果と課題の分析	最終値	評価	結果と課題の分析
確かな学力	授業改善	①「授業では、関同士やグループで話し合いをすることがありますか。」に肯定的回答をした児童の割合 ②「授業では、意見の深まりや広がりが見られる対話にすることができた。」肯定的回答をした教師の割合	①88%以上 ②75%以上	①85%以上 ②70%以上	①80%以上 ②65%以上	①80%未満 ②65%未満	①92% ②79.4%	①A ②B	話し合いをしていこうという意識は高まっている。一方で、対話することがあまりない、ほとんどないと答えている児童も1割程度いる。どの学級でも対話を意識させていくことが必要である。また、研修を行うことで教員の意識も高まっている。対話することにより、学びが深まっていると感じられる授業づくりを意識できつつある。			
	基礎学力の定着	算数科・国語科 単元末テストにおける到達度80%以上の児童の割合 ①知識・技能 ②思考・判断・表現力の平均値	70%以上	60%以上	50%以上	50%未満	68%	B	算数科では知識76.5%、思考53.5%という結果だった。国語科では、知識71%、思考72.4%という結果だった。これより、算数科の思考に大きな課題があると考える。また、学級間の差も見られることから、学年で力をつけていくための取り組みを継続して行っていくことが大切であると考え。そこで、ぐんぐんタイムでのタブレットを使った算数問題の取り組み、国語科での新聞を教材とした取り組み等で基礎的な力、活用力を上げていきたい。			
	読書活動	児童一人当たりの平均貸出冊数(指定図書を含む)	高学年45冊以上 低学年60冊以上	高学年40冊以上 低学年55冊以上	高学年35冊以上 低学年50冊以上	高学年35冊未満 低学年50冊未満	23.7冊	A	1学期末現在、低学年21.3冊、高学年26.1冊だった。よって、2学期、3学期を考えると、目標を達成できると考える。2学期には読書祭りやビブリオバトルがある。そこで、児童が本を手に取り楽しんで読めるようにしていきたい。			
健康の保持増進	よく動く	1か月の学級全員が外遊びをしている平均回数	4回以上	3回以上 4回未満	2回以上 3回未満	1回以下	3.2回	B	ひと月に4回以上外遊びをした児童の割合について、学校全体で46.3%～68.3%と、学年によって約20%程差が出た。4月から7月になるにつれて、気温が高くなったことで、外遊びの回数が減っていることも考えられる。 今後に向けては、体育委員会と連携した外遊びを推奨する取り組みをすることを考えている。			
	よく食べる	給食を食べた割合	90%以上	90%～85%以上	85%未満 ～75%以上	75%未満	88%	B	完食率は、昨年度の同時期と比較すると微増であった。給食準備中の過ごし方の指導等により、準備時間の短縮が図られ、喫食時間の確保につながったと考えられる。今後も引き続き、調理風景の動画視聴や食育の授業を通して、食べることへの関心を高めていきたい。			
	よく眠る	早ね早起き朝ごはんキャンペーン中、自分が決めた目標の睡眠時間を守れた人数の割合	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	96%	A	自分の決めた目標の睡眠時間を守ることができなかった児童の割合で6年生が約6%と一番高かった。高学年になるにつれて習い事の時間が増えたことなどから、毎日同じ時間に寝ることができない原因と考えられる。 今後に向けては、次回のキャンペーン時に目標時間の見直しを呼びかけ、無理のない目標時間を設定させる。			

自律した心	挨拶	挨拶に対する児童アンケートにおける肯定的回答の割合	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	75%	C	4月当初よりも挨拶を大きな声でする児童は増えてきた。また、朝だけでなく昼や帰りなどもすれ違うたびに挨拶をする児童も増えてきた。生徒指導部の放送などにより、児童が挨拶に対して前向きになってきている。後半に向けて、さらに挨拶を伸ばしていけるように、取り組んでいきたい。			
	自己肯定感	自己肯定感に関する児童アンケートにおける肯定的回答の割合	80%以上	75%以上	70%以上	70%未満	74%	C	低学年や高学年に比べ、中学年で数値が低い傾向がある。行事や授業中の声かけや評価、また友達同士での対話などの関わり合いなどを通して、認められているという経験を多くしていきたい。また、気になる児童に対しても、伸びてきたことやがんばってきたことなどを即時的に声掛けしているので、後半に向けて継続していきたい。			
信頼される学校	教育の質の向上	「児童生徒と向き合う時間」が確保できていると感じている教員の割合	100%	80%以上 100%未満	60%以上 80%未満	60%未満	100%	A	月、火は放課後に会議等を入れず、水、金の会議も16:15までには終わるように計画的に進めている。また、掲示板やホワイトボードを活用することで、連絡を周知しやすくするようにして、職員の時間を確保できるようにした。			
	業務量の適正化働きやすさと働きがい	時間外勤務が月当たり45時間以内を達成できた職員の割合	100%	80%以上 100%未満	60%以上 80%未満	60%未満	79%	C	4月と6月の繁忙期に勤務時間が長くなる。6月については成績処理日を設けるなど時間の確保に努めている。また、定時退校日を水曜日に設置し、計画的に仕事を行うように促している。今後は、さらに繁忙期に時間の確保ができるような工夫をしていくことや提示退校日を守っていけるように職員に見通しをもって計画的・効率的に仕事ができるように声掛けをしていく。			